SDV時代
日本の戦略と産業の未来～経済産業省×リョーサン菱洋が読み解く、モビリティDX最新状況～

なぜ、いま「SDV」「モビリティDX」を理解しておかなければならないのか

これまで「自動車王国ニッポン」と呼ばれていた産業構造が崩れつつある。世界のモノづくりに食らいつくヒントに「SDV」「モビリティDX」を理解しておく必要がある。日本では、今、米中の自動運転システムの発展に追従できていない点などが課題だ。「SDV」「モビリティ」と聞くと、自動車業界の話と考えがちだが、**本課題は自動車業界のみならず、他の業界にも影響する。**理由は明確で自動車に使用されている半導体・ソフトウェア等のスペック変化により、半導体の生産量・価格・ソフトウェア開発・サイバーセキュリティ対策と広範囲に影響を及ぼすためである。また、自動運転においては生成AIの活用が進む米中を中心に競争は激化。日本は現状後追いとなっているのが実態だ。

今回視聴したウェビナ

製造業全般にも「SDV」「モビリティDX」が重要キーワードであることを理解し、今回は経済産業省×リョーサン菱洋株式会社主催のウェビナを視聴した。1時間ほどのウェビナであったが、経済産業省のウェブ上に掲載されている資料と共に「日本が向かっていきたい像」や高市総理の発言を基にした施策についても概要説明があった。

【登壇者】
（左から）経済産業省 製造産業局 自動車課 モビリティDX室　係長 牧野皓陽氏、リョーサン菱洋株式会社 デバイス営業本部　デバイス技術第一 技術第三課 課長 上滝聡氏

SDVから広がるデジタルエコシステムとは

近年、「デジタルエコシステム」という言葉を耳にする機会が増えている。しかし、その意味を正確に説明できる人はまだ多くない。デジタルエコシステムとは、**企業や組織が単独で価値を提供するのではなく、複数の企業・サービス・データ基盤が連携しながら、新たな価値を創出する仕組み**を指す。SDVでは、単なるソフトウェア更新にとどまらず、クラウド、AI、各種サービスとの連携が不可欠であり、単独企業だけでの実現は困難である。同様の構造は他産業にも広がっており、今後はデジタルエコシステムを軸に、製品単体から継続的なサービスへと価値提供の形を進化させていく必要がある。その全体像を示したのが以下だ。

参考：5/27リョーサン菱洋テクラボ開催：SDV時代：日本の戦略と産業の未来
～経済産業省×リョーサン菱洋が読み解く、モビリティDXを基に図式化。

まとめ

- カーボンニュートラル、人口減少、物流問題、GX×DXの世界的大競争に対峙するには、「SDV」「モビリティDX」に関して情報収集することで国家戦略と自社の施策を結びつけることができる。
- ハード・ソフトの開発においてスピード感を持つ、海外勢と対峙するには「デジタルエコシステム」の動向についても注視する必要がある。

ウェビナ視聴・編集：大村わかな

お問い合わせ先

リョーサン菱洋株式会社 セールスプロモーション部
リョーサン菱洋テクラボ　編集長　山口功一郎（ko.yamaguchi@rers-grp.com）

Copyright 2026 © Ryoyo Ryosan,Inc All rights reserved